修士論文（要旨）
2012 年 1 月

ハングル表記は韓国人日本語学習者の発音にどのような影響を与えるか
―日本語破擦音/ザ//ゾ//ツ/に焦点をあてて―

指導　齋藤伸子　教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
210J3008
全娟姝

目次

第 1 章　序論.....エラー! ブックマークが定義されていません。
1．1　研究背景.....エラー! ブックマークが定義されていません。
1．2　仮説.....エラー! ブックマークが定義されていません。
1．3　本論文の構成.....エラー! ブックマークが定義されていません。
第 2 章　先行研究.....エラー! ブックマークが定義されていません。
2.1　韓国人日本語学習者における日本語発音上の問題点エラー! ブックマークが定義されていません。
2.2　韓国人日本語学習者における日本語破擦音の研究エラー! ブックマークが定義されていません。
2.3　表記と発音.....エラー! ブックマークが定義されていません。
第 3 章　調査概要と分析方法.....エラー! ブックマークが定義されていません。
3.1　調査概要.....エラー! ブックマークが定義されていません。
3.2　調査Ⅰ:発音実験.....エラー! ブックマークが定義されていません。
3.3　調査Ⅱ:アンケート調査.....エラー! ブックマークが定義されていません。
3.4　調査Ⅲ:聴取実験.....エラー! ブックマークが定義されていません。
3.5　フォローアツプインタビュー.....エラー! ブックマークが定義されていません。
第 4 章　分析.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.1　調査Ⅰ:破擦音/ザ//ゾ//ツ/の観察　―日本語母語話者からの評価―エラー! ブックマークが定義されて
4.1.1　初級学習者と上級学習者.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.1.2　レベルによる差.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.1.3　音韻対立による差.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.1.4　調査Ⅰの発音実験に対する結果に関する考察エラー! ブックマークが定義されていません。
4.2　調査Ⅱ:アンケート調査.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.2.1　結果.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.2.2　調査Ⅱのアンケート結果に対する考察 ..エラー! ブックマークが定義されていません。
4.3　調査Ⅲ:聴取実験.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.3.1　初級学習者と上級学習者.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.3.2　レベルによる差.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.3.3　音韻対立による比較.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.3.4　聴取実験 2 の結果.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.3.5　聴取実験の結果に対する考察.....エラー! ブックマークが定義されていません。
4.4　フォローアップインタビュー.....エラー! ブックマークが定義されていません。
第 5 章　総合的な分析および考察.....エラー! ブックマークが定義されていません。
5.1　ハングル表記と発音の関係.....エラー! ブックマークが定義されていません。
5.2　ハングル表記と聞き取りの関係.....エラー! ブックマークが定義されていません。
5.3　発音と聞き取りの関係.....エラー! ブックマークが定義されていません。
6 章　音声指導への示唆と本研究の限界および今後の課題エラー! ブックマークが定義されていません。
6.1　音声指導への示唆.....エラー! ブックマークが定義されていません。
6.2　本研究の限界及び今後の課題.....エラー! ブックマークが定義されていません。
参考文献
謝辞

本研究は，韓国語を母語とする韓国人日本語学習者を対象とし，日本語の発音の中でも語頭に現れる破擦音/ザ//ゾ//ツ/に焦点をあて，ハングル表記が日本語の発音に与える影響について考察するものである。

韓国語を母語とする日本語学習者の発音上の問題点のうち取り上げられることが多いのは日本語破擦音「ザ行音・ツ」である。習得が困難である理由は，日本語の破擦音「ザ行音・ツ」は韓国語にはない音であるためと言われる（助川 1993，白 1993，金・他 1997 松崎 1999）。韓国語に存在しない場合は韓国語の音を代用するという母国語の干渉が見られるという（李 1990，李 2006，許 2008）。これらの研究は発音から見られる母国語の干渉を述べているものであるが，外国語の音を母国語で表記する際に生じる表記から見られる母語の干渉の可能性も考えておかなければならない。磯村（1994）はドイツ語を学習している日本語母語話者を対象に，仮名文字が発音に与える影響に関する研究を行った。その結果磯村は，仮名文字でドイツ語の発音を表記することがドイツ語の発音に影響を与える原因の１つであることが明らかになったと述べている。よって本研究では，磯村の調査方法を基に調査を進めた。

調査対象は，韓国人日本語学習者の24名（初級12名，上級12名）であった。なお，音韻対立をしている/ジャ//ジョ//チュ/の音との区別ができるようになって初めて習得が達成されたというべきであると述べている戸田（2008）ことから，比較を行うため両方を観察対象とした。調査は，Ⅰ：日本語の音をどのように発音しているかを観察するための発音実験，Ⅱ：日本語の音をハングルでどのように表記するかを観察するアンケート調査，Ⅲ：日本語の音をどのように聞いているかを観察するための聴取実験の3つであった。さらに，調査後フォローアップインタビューも行った。調査に用いた音は，/ザ//ゾ//ツ/と/ジャ//ジョ//チュ/の音素が語頭に入った3泊語の無意味語の頭高型である合計18語であった。調査Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの結果は，初級学習者と上級学習者に分けレベル差による結果を検証した上で，音韻対立をしている3つのペアによる分析を行った。さらに3つの調査を統合し，発音とハングル表記との関係，ハングル表記と聞き取りの関係，発音と聞き取りの関係に対して考察を行った。

調査Ⅰの発音実験の結果は,日本語母語話者により評価の点数を付けたものであった。その結果，/ザ//ゾ//ツ/の音素のうち初級学習者と上級学習者ともに評価の点数が高かったのは/ツ/で，/ザ/，/ゾ/の順であった。また，/ジャ//ジョ//チュ/の音素のうち，初級学習者と上級学習者ともに評価の点数が高かったのは/チュ/で，/ジョ/，/ジャ/の順であった。また，成績順の高い順に並べ替えた結果，上位群には上級学習者が多いことがわかった。

次に，調査Ⅱのアンケート調査（ハングル表記）の結果では，まず，同じ音素であっても表記にはばらつきが見られた。また，音韻対立をしている/ザ/と/ジャ/，/ゾ/と/ジョ/のペアにおいて同じハングルで書いている学習者も異なるハングルで書いている学習者もいることがわかった。しかし，/ツ/と/チュ/のペアにおいて同じハングルで書いている学習者はゼロであった。

最後に，調査Ⅲの聴取実験は，/ザ//ゾ//ツ/と，/ジャ//ジョ//チュ/の音素を含む無意味語を聞き平仮名で書く実験１と，ハングルで書く実験２を行った。まず，聴取実験１の結果，/ザ//ゾ//ツ/の聞き取りにおいて初級学習者と上級学習者ともに聞き取りの

点数が高かったのは/ツ/で，/ゾ/，/ザ/の順であった。また，/ジャ//ジョ//チュ/の聞き取りにおいて初級学習者と上級学習者ともに聞き取りの点数が高かったのは/チュ/で，/ジャ//ジョ/の順であった。また，成績順の高い順に並べ替えた上位群と下位群に分けた結果，上位群には上級学習者が多いことがわかった。

調査Ⅰ，Ⅱ，Ⅲをそれぞれ分析・考察した上で，本研究の研究課題であったハングル表記が発音と聞き取りに与える影響を明らかにすることを目的とし，調査Ⅰ，Ⅱ，Ⅲそれぞれを統合した総合的な分析を行った。その結果，音韻対立をしている/ザ/と/ジャ/，/ゾ/と/ジョ/のペアにおいてハングルで書き分けていなかった学習者は同音の発音と聞き取りの点数において下位群に属していることがわかった。

参考文献

（日本語で書かれている文献）

磯村一弘（1994）「日本語を母語とするドイツ語学習者における Ö の発音の音響学的研究」東京外国語大学修士論文.

稲葉継雄（1978）「韓国人の日本語学習における問題点ー発音を中心としてー」『外国人と日本語』3．63－79.

李炯宰（1991）「韓国人日本語学習者の音声教育に関する研究―発音および聞き取り上の問題点を中心に―」『日本語と日本文学』筑波大学国語国文学会.

李範錫（2006）「韓国人日本語学習者の日本語の発音について」信大日本語教育研究 6. ｐ．2－9.

李明姫（1986）「韓国における日本語初級過程学生の聴音能力の実態調査」『国語学研究』26．東北大学文学部.

大工久美子（1998）「韓國人日本語學習者の發音矯正と定着について―「ざ・ず・ぜ・ぞ」の場合―」『日本研究』中央大学校日本研究所.

小河原義朗（1997）「発音矯正場面における学習者の発音と聞き取りの関係について」『日本語教育』92 号.

河野俊之・松崎寛（1998）「リピートだけでどれだけ発音がよくなるか」『日本語教育学会秋季大会予稿集』.

門田修平（2007）『シャドーイングと音読の科学』コスモピア.

金卓淑（1978）「韓国人の日本語学習における発音難易度の分析ーとくに両国語間の音韻組識の対照を中心にー」『外国人と日本語』5.

金春子（1989）「日本語の初級過程学習者の発音力の実態調査とその分析ー韓国人を対象としてー」韓国外国語大学校教育大学院修士論文.

国際音声学会編（20031993）『国際音声記号ガイドブック』大修館書店.

助川泰彦（1993）「母語別に見た発音の傾向―アンケート調査の結果から―」日本語音声と日本語教育.

戸田貴子（2008）『日本語教育と音声』くろしお出版.

許舜卓（2008）「韓国語を母語とする上級日本語学習者によるザ行音の習得」　『日本語教育と音声』くろしお出版.

白同善（1993）「日本語および韓国語の音声習得における言語間干渉」『ことばの科学』6 名古屋大学言語文化部.

松崎寛（1999）「韓国語話者の日本語音声―音声教育研究の観点から―」音声研究 3 号.

油谷幸利（2005）『日韓対照言語学入門』白帝社.

（韓国語で書かれている文献）　文献名の翻訳は稿者による

閔光準・趙南徳（2002）「일본어 가나의 한글 표기법의 문제점과 개선 방안」『日本語學研究』제 5 집 pp.53 - 64 한국 일본어 학회.

（訳：閔光準・趙南徳（2002）「日本語仮名のハングル表記法の問題点と改善法案」『日本語學研究』第 5 集 pp.53 - 64 韓国日本語学会）

민광준(2006)『일본어 음성학 입문』건국 대학교 출판부.

（訳：閔光準（2006）『日本語音声学入門』建国大学出版部）